

職業訓練法人久留米地区職業訓練協会 「久留米地域職業訓練センター」を訪ねて

職業能力開発総合大学校 渡邊 信公

1. はじめに

九州の玄関口福岡空港から地下鉄と西鉄電車を乗り継いで約50分で久留米に着く。久留米は、有馬21万石の城下町で福岡県南部の広域生活圏の中心都市として位置づけられている。古くは軍都として、久留米がすりの生産地として全国に知られているが、現在ではゴム工業・商業都市として発展している。また、歌手の松田聖子さん、藤井フミヤさんの出身地としてご存じの方も多いのではないだろうか？

今回訪問した久留米地域職業訓練センター(図1)は、久留米市の東玄関となる九州自動車道「久留米インターチェンジ」の北側に位置し、交通至便の地にある。

今回、本誌の企業・施設訪問の取材では、地域職業訓練センターを初めて取り上げることになり、久留米地域職業訓練センターを訪問した。

2. 各科の特色と訓練概要

久留米地域職業訓練センターは昭和55年に設置され、久留米市長を会長とし、職業訓練法人久留米地区職業訓練協会が運営にあっている。この地区職業訓練協会の構成メンバーは、地方公共団体および商工会議所などの「特別会員」と、事業主または事業主団体などの「賛助会員」・「普通会員」で構成されており、230を超える団体・企業が加盟している。設立後現在まで22年間、地域労働者・求職者の方を対象とした各種職業訓練をはじめ、地域住民の方々が広く参加できる講座も開設するなど、時代に



図1 久留米地域職業訓練センター

即したさまざまな訓練を積極的に行っている訓練施設である。

地域職業訓練センターは、九州に現在10カ所あるが、そのなかで久留米地域職業訓練センターは、熊本に次いで2番目に設立された歴史的にも古いセンターの1つである。また、全国的にみると80カ所の地域職業訓練センターがあるが、本地域職業訓練センターは、利用状況が全国の地域職業訓練センターのなかで例年ベスト3か4の位置を維持している施設である。

訓練施設は、鉄筋コンクリート3階建ての建物(図1)に、表1に示す多目的実習室・パソコン関係教室などが効率よく配置されている。また、同表からわかるように、各教室・ホールなどの稼働率は非常に高く、全国地域職業訓練センターのなかで常に上位を維持し続ける充実した訓練計画が立てられていることがうかがえる。

表1 訓練施設と利用実績

施設設備名	年度	利用実績			
		平成11年度		平成12年度	
	件数	人員	件数	人員	
多目的実習室A		315	6,413	214	8,924
多目的実習室B		277	4,372	183	3,819
小会議室A		409	3,189	313	2,620
小会議室B		405	4,072	300	3,391
第1教室		467	12,279	430	10,976
第1パソコン室		941	10,076	852	8,969
第2パソコン室		261	3,673	203	2,991
第3パソコン室		731	9,731	815	10,670
第4パソコン室		702	9,858	706	9,420
第5パソコン室		674	9,380	637	9,032
第6パソコン室		346	10,359	290	9,415
小ホール 72㎡		248	10,552	355	8,406
大ホール 290㎡		227	30,696	273	39,889
計		6,183	124,650	5,571	128,492

3. 訓練の特徴

現在福岡県の公共職業能力開発は、県立高等技術専門学校7校、国立障害者職業能力校1校、雇用・能力開発機構立の職業能力開発促進センター2校および職業能力開発大学校1校で行われている。このような県内の職業訓練環境のなか、本地域職業訓練センターは、地域企業や住民の要望をいち早く訓練内容に反映させるように訓練施設および内容の改善を図り、すばやい対応を心がけて訓練が行われている。特に、「安い受講料で、充実した新しい機材を使い、ベテランの講師陣が親切丁寧な訓練を！」をモットーに、職員・講師陣一丸となった訓練が行われていた。

久留米は、周辺都市に比べ教育や医療面が充実した都市形態となっており、一次、二次ではなく高次の都市機能を持った都市として発展している。特に工業について注目すると、ゴム工業が中心である。就業人口比では約22%から23%の方がゴム工業の関連産業に就業している。また一方、約70%がサービス業を中心とした第三次産業に従事しているという特徴がある。

このような都市機能や産業構造のもと、現在は国のIT訓練に呼応し、在職者と求職者双方のパソコン訓練を行っており、非常に応募状況が良く定員オ



図2 パソコン訓練



図3 自衛隊に対する訓練

バーの状況が続いている（図2）。今年度は2月の段階で、すでに在職者1,000人、求職者1,200人の訓練が行われていた。

以上のような一般産業の在職者や求職者に対する訓練のほかに、久留米地域職業訓練センターの特徴として、昔から軍都として発展した経緯もあり、自衛隊に対するパソコン訓練の委託訓練を実施していることが挙げられる（図3）。これらの訓練の評価は高く、現役自衛隊ばかりでなく自衛隊を退職された方々の組織からも依頼があり、地域と密着した訓練が行われている。

4. 訓練の現状

訓練内容は、次に示す5つの項目で実施されている。

- 1) 受託訓練Aは、離転職者に対し必要な技能知識を習得させることにより再就職を促進し労働力の有効活用を図るため、国や雇用・能力開発機構が

表2 平成13年度訓練計画と実施状況

区分	コース数	実 施 訓 練		
		回数(回)	時間数(時間)	人員(人)
受託訓練A	6	104	6,899	4,817
受託訓練B	7	27	258	1,415
向上訓練	43	109	3,471	1,547
自主訓練	24	121	3,450	1,924
自立訓練	2	2	60	32
総 計	82	363	14,138	9,765

らの委託をうけ実施している訓練で、OA事務科、ITリテラシー科、自衛隊パソコン訓練などがある。

- 2) 受託訓練Bは、民間の企業団体から委託を受け実施する訓練で、パソコン訓練、ISO研修、新入社員訓練などがある。
- 3) 向上訓練は、職業能力開発促進法に基づく企業在职者訓練で、ワード、エクセル、アクセス、プレゼンテーション作成、CAD、ISO9000、ISO14001の推進者研修および内部監査員研修などがある。
- 4) 自主訓練は、職業能力開発法に該当しない一般市民、地域労働者などを対象にした訓練で、ワード、エクセル、インターネット、ホームページ作成講座、eコマース講座などがある。
- 5) 自立訓練は、障害者の職業自立を促す訓練で、ワード、エクセルなどの講座がある。

これら訓練の平成13年度事業計画と実施状況は表2に示すとおりである。

特に向上訓練としては、企業在职者訓練でパソコンのワード、エクセル、アクセス、CAD、ISO9000、ISO14001(図4)が行われている。パソコン訓練は、高齢者(だいたい60歳以上でこれまでの受講者では80歳を超えた方もいた)を対象にした「こつこつコース」や一般の入門コースなどが非常に多くなっている。しかし、もう1ランク上の訓練を目指した計画も進められている。つまり、企業在职者で業務分析ができ、フローチャートなどをもとにセッション間のシステムを組めるような出来上がり像を目指して、講師陣も民間SEを経験された方などを招聘する計画である(一部実施中)。このような入門から中級・上級に至る系統だったパソコン訓練が軌



図4 ISO訓練

道に乗れば、訓練修了者のレベル向上とともに企業に本当に定着して力を発揮してくれるものと期待して、将来に向けたさまざまな訓練も計画されている。また、「充実した新しい機材を使った訓練」という発想のもと、パソコン訓練で使用される130台のパソコンは、3年更新という整備計画を立てて機器の刷新が随時図られている。さらに、将来に向かって新しい訓練を行わなければならないという考えのもと、平成11年からスタートさせたISOの訓練は、180社が受講し60企業が取得するなど、大きな反響を得て定着してきている。この訓練の受講者は、福岡県のみならず熊本県・佐賀県からも来られており、久留米の地域性も反映されているものと思われる。さらにもう1つの新しい試みとして、平成14年2月に電子商取引、eコマースのセミナーが開催されている。このセミナーは、現在の情報通信技術(IT)および産業界の情報化に即応した訓練だと思われる。今後の展開に期待がふくらむ。この訓練に対して、「反響はこれからだと思いますが、手応えは十分にありました」とセンターの職員の方々が力強く語っていた。

5. おわりに

久留米地域職業訓練センターは、地域ニーズと産業の動きにあわせ、パソコン訓練に次ぐ地域産業が求める訓練をいろいろと模索し、開拓しながら積極的に前進している。今回、久留米地域職業訓練センターを訪ねて、地域センターをますます発展させる職員・講師陣の熱意と意欲が強く感じられた。